

「素手で触っちゃいけない」キノコ

カエントケを触る

千葉県立中央博物館 房総の山のフィールド・ミュージアム

小田島 高之

平成 17 年 9 月 30 日、今日は週に一度の清和にある三島小教室博物館に行く日。中央博の企画展示室では、公開間近のキノコの展示の準備が急ピッチで進められていました。私は同僚の島立と毒キノコのコーナーの前に立ち、展示ケースに入ったばかりの写真パネルを眺めていました。素人の私でも良く知っている毒キノコに混じって、今まで見たことのない、いかにも毒々しいオレンジ色のキノコ・・・カエントケがありました。私は島立に向かって、ろくにキャプションも読まず「こんな（いかにも毒キノコらしい）キノコを食べて死んでも誰にも同情されないよな」などと冗談を言いました。

キノコのシ - ズンには、三島小に通う日にも、なるべく山を歩いてキノコ探しをするのが習慣となっています。昨年はいろんな夏から秋にかけてのキノコが沢山見られましたが、今年の清和は、あまり雨が降らないせいか不作。いくつかのポイントを回って見ましたが、結局、今日もあまりおもしろいキノコには出会えずじまいでした。

まだ帰るまでには時間があったので、モミタケなんかででいたら嬉しいな... などと思いつつ、一山越えて亀山のモミ林に行くことにしました。林に入って 10 分ちょっと、沢山あるモミの木の周りを 1 本ずつ丹念に探しても、清和と同様、普通のキノコすらほとんど生えていません。半ば諦めかけていた頃、同僚が私を呼ぶ声が聞こえました。声の方に行ってみると、大雨が降ると水が流れて来そうな周りよりちょっと低くなった所に、不気味な赤い棒のようなキノコが数本生えていました。先端で枝分かれしている所など、



カエントケ(Podostroma cornu-damae) 2005.9.30 君津市笹

ちょうどイシサンゴのなかまのエダイボヤギを連想させます。「これって、朝見たのと同じヤツじゃない?」という島立。あの大作さんの写真とはちょっと雰囲気が違う気がしましたが、とりあえず写真を撮って、採集しました。

館に戻って展示室にいた吹春さんに見せたところ、やはりカエントケで、千葉県では珍しいキノコだと教えられ、ちょっと嬉しかった。でも、再び毒キノコのコーナーに行き、カエントケのキャプション中の恐ろしい文字の羅列を見て、今度は青くなりました。「素手で触っちゃいけない」キノコなんて反則だと思いませんか? 何しろ、今回はもちろん、私はキノコ採集の時に手袋なんてしたことないんですから... 幸い、表面が乾いていたためか、手がかぶれることはありませんでしたが、あの日雨が降っていたら、と思うとゾッとします。仮にも博物館に勤める身、野外で出会う可能性のある危険な生き物は、ある程度把握して置かなくてははいけませんよね。